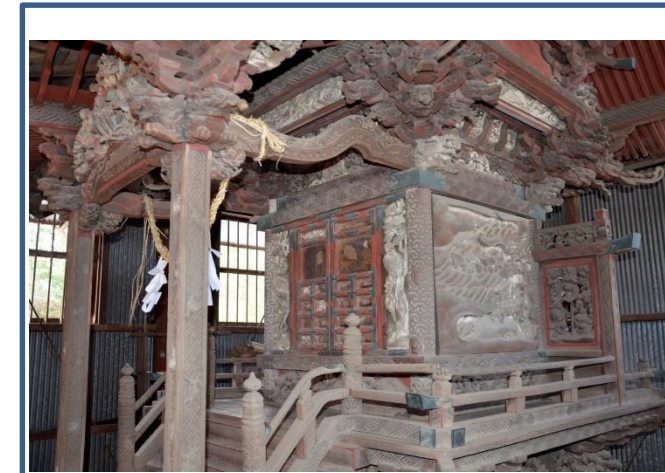


## 1. 本県文化資源の特徴

- (1) 山地、丘陵地、台地、低地といった多様な地形及び荒川や利根川といった大河川により育まれた豊富な自然とその恵みを背景とした様々な生業とそれをもとにした多彩な歴史文化の存在。
- (2) 中世の城館跡など武蔵武士に関係した文化財の存在。
- (3) 日本の政治、文化、産業の中心であった江戸・東京の隣接地として、一大消費地江戸東京を背景に営まれた生業や、その文化に影響を受けた民俗文化の存在。
- (4) 東京に近接する県南部を中心とした早期に都市化した地域における歴史文化の消失や変容。一方で、東京からやや距離のある県北部や秩父地域における、多くの歴史文化の存在。

## 2. 本県指定文化財等の概要

種 別	国	県	国・県計
<b>有形文化財</b>	<b>重要文化財79</b> (うち国宝 5) 例 国宝 歎喜院聖天堂 稲荷山古墳出土品 法華経一品経 重要文化財 旧遠山家住宅 日本煉瓦製造(株)煉瓦製造施設	<b>335</b> 例 平林寺惣門、仏殿など 矢島家 円空仏群 喜多院日鑑 笑う埴輪	<b>414</b>
<b>無形文化財</b>	<b>3</b> 例 細川紙	<b>2</b> 例 江戸木目込人形	<b>5</b>
<b>民俗文化財</b>	<b>14</b> 例 有形民俗文化財 秩父祭屋台 北武蔵野農具 無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事	<b>76</b> 例 有形民俗文化財 田子山富士塚 飯能の西川材関係用具 無形民俗文化財 塚越の花まつり	<b>90</b>
<b>記念物</b>	<b>39</b> 例 史跡 埼玉古墳群 名勝 長瀨 天然記念物 平林寺境内林	<b>278</b> 例 史跡 野火止用水 名勝 越生の梅林 天然記念物 アケボノゾウ骨格化石	<b>317</b>
<b>伝統的建造物群保存地区</b>	<b>1</b> 川越伝統的建造物群保存地区		<b>1</b>
<b>選定保存技術</b>	<b>3</b> 例 漆刷毛製作		<b>3</b>
<b>登録有形文化財</b>	<b>172</b> 例 十万石ふくさや行田本店店舗		<b>172</b>
<b>登録有形民俗文化財</b>	<b>3</b> 例 狭山茶の生産用具		<b>3</b>
<b>登録記念物</b>	<b>1</b> 例 旧山崎氏別邸庭園		<b>1</b>
<b>選択無形民俗文化財</b>	<b>14</b> 例 脚折の雨乞い	<b>30</b> 例 伊豆沢の天気占い	<b>44</b>
<b>合 計</b>	<b>329</b>	<b>721</b>	<b>1050</b>



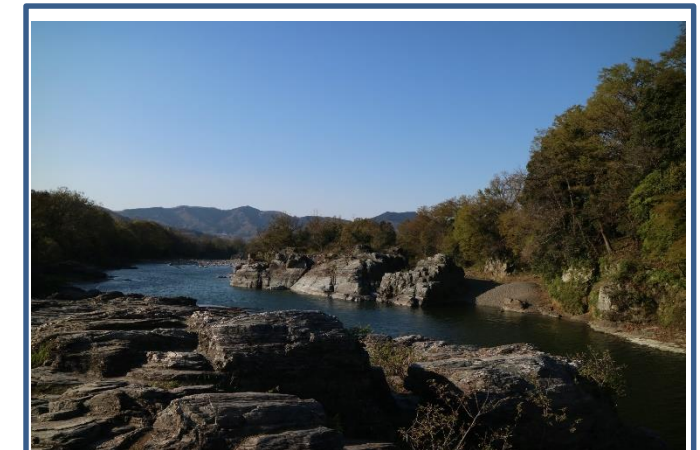
諏訪神社本殿(県・有形文化財、熊谷市)



細川紙(国・無形文化財、小川町・東秩父村)



秩父祭の屋台行事と神楽(国・重要無形民俗文化財、秩父市)



長瀨(国・名勝・天然記念物、長瀨町・皆野町)



川越市伝統的建造物群保存地区(国・伝統的建造物群保存地区、川越市)



唐紙製作(国・選定保存技術保持者・小泉幸雄氏、八潮市)

### 3. 保存のための取組状況

#### (1)文化財の指定

- ・情報収集、事前調査⇒教育委員会による諮問⇒文化財保護審議会による調査、検討、答申⇒教育委員会での審議⇒指定

#### (2)文化財の保護に対する補助金の交付

- ①国、県指定文化財の保護に関する事業に対する補助
  - ・平林寺境内林（国・天然記念物）再生事業、川越氷川祭の山車行事（国・無形民俗文化財）山車修理、秩父神社社殿（県・建造物）保存修理など
- ②民俗芸能の後継者養成に関する事業への補助
  - ・県指定無形民俗文化財の後継者育成事業（令和元年度は9団体に補助）
- ③埋蔵文化財の調査や保存に関する事業への補助
  - ・遺跡内で行われる建設工事に先立ち市町村が実施する試し掘りの調査への補助

#### (3)防火、防災、防犯への取組

- ・ノートルダム大聖堂の火災を受け、指定文化財の防災設備の緊急調査を実施
- ・指定文化財の所在確認調査の実施

#### ※補助金額の推移

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
金額(千円)	114,280	108,012	122,043	120,786	123,568
補助件数	95	93	100	99	87

### 4. 活用のための取組状況

#### (1)文化資源課の取組

##### ①文化財調査活用事業

- ・これまで十分な調査がされず、周知されてこなかった文化財等について、学術調査を実施し、埼玉県の歴史文化を再発見と発信を行う。
- ・無形民俗文化財の調査⇒巡り・廻りの民俗行事(H28～R1)
- ・自然遺産の調査⇒石灰岩地基礎調査(H28～H30)、入間川地域自然調査(R1～R4予定)
- ・歴史遺産調査 テーマ：新編武蔵風土記稿記載の歴史資料調査(H28～R2予定)

※これまでは、近代和風建築、彫刻、中世城館跡、歴史の道、獅子舞、植物など個別の文化財を対象として県全域を対象とした悉皆調査を行ってきた。本事業では個別文化財の悉皆調査ではなくテーマや地域を設定した調査を実施している。

##### ②埼玉県の文化・文化財百選事業の実施

- ・文化財に関する分かりやすいテーマを設定し、一般県民の参加により文化財等の情報収集と発信を行うことで、より多くの県民に文化財等への関心を持ってもらう取組⇒第1弾として「101匹の埼玉狛犬」を実施。

##### ③埋蔵文化財保存活用事業

- ・県が収蔵している埋蔵文化財の整理、保存と、学校教育や生涯学習の分野での活用⇒実物の土器や石器を学校に持ち込み授業を行う「古代から教室へのメッセージ」事業。

##### ④文化財を巡るバスツアーの実施

- ・県内所在の文化財を巡り、参加者に文化財の保存継承への理解を深めてもらう。R1年度は近代和風建築「旧遠山家住宅」「旧山崎家別邸」を予定。

##### ⑤学校教育との連携

- ・子供たちが地域の文化財等をとおして学び、学習成果を実社会に発信する博物館と学校教育が連携する取組み⇒「博物館・美術館庫活用した子供パワーアップ事業」

##### ⑥ホームページやSNSを通じた情報発信

#### (2)博物館施設の取組

##### ①国県指定文化財の展示等での公開、文化財等を訪ねる事業の実施

平成30年度実績(一部)

- ・常設展示での公開⇒歴民：短刀(国宝)、法華経一品経(国宝)、三十六歌仙(重文) さきたま博：稲荷山古墳出土品(国宝) 自然博：古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群(天然記念物)
- ・特別展、企画展での公開⇒歴民：阿弥陀如来立像(重文)、合角ダム水没地域の民俗資料(県有形民俗) さきたま博：生出塚埴輪窯出土埴輪(重文)
- ・文化財等を訪ねる事業⇒歴民：特展関連バスツアー、さきたま博：史跡探訪、嵐山博：文化財巡り、自然博：観察会

##### ②魅力的で質の高い企画の実施

- ・近年評判が高く観覧者が多かった特別展、企画展 ⇒歴民：特別展「上杉家の名刀と三十五腰」(H29年度)ゲーム「刀剣乱舞」とコラボ 嵐山博：企画展「越山ー上杉謙信侵攻と関東の城ー」(H30年) 自然博：特別展「ハチを知る」(H30年) 川博：特別展「神になったオオカミ」(H30年)

##### ③地域社会との連携

- ・近隣施設と連携して、地域全体として魅力発信を行いや集客力を高める。 ⇒歴民：大宮公園駅周辺の9施設が連携する「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」 さきたま博：古代蓮の里、行田市郷土博物館、足袋蔵と連携 自然博：秩父鉄道と連携した「SLミュージアムトレイン」、長瀨町観光協会と連携した「紅葉ライトアップ」

##### ④オリンピック・パラリンピック関連事業

- ・外国人の利用促進のため、多言語化など「おもてなし環境」を整備
- ・博物館施設が合同で埼玉県の魅力を発信する企画展や体験事業を実施

##### ④学校教育との連携

- ・学校団体利用促進のため、学習課程に即した展示コースや体験プログラムを用意
- ・実物資料などを持参して学芸員が授業を行う出前授業(実物資料のみの貸出しもOK)
- ・職場体験、インターンシップの受入れ

##### ⑤図書館との連携

- ・特別展、企画展開催中に関連する図書を紹介する展示を図書館で実施 ⇒歴民：特別展「東国の地獄極楽」における県立熊谷図書館、久喜図書館での展示 嵐山博：企画展「越山」に関連した文化講演会を県立熊谷図書館で開催

##### ⑥解説や普及事業のサポートとしてボランティアの養成

- ・博物館施設におけるボランティア登録者数472名（R1年度）

#### ※博物館施設の入館者数、利用者数推移

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入館者数	715,187	809,784	880,860	882,422	891,699
利用者数	750,010	854,427	917,192	914,932	983,719

#### ※学校団体利用の推移(県内小中学校)

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用学校数	488	473	497	430	479
児童生徒数	34,081	30,511	30,142	30,736	33,007